



# 世界の言語文化とグローバル化

## *Globalization and World Languages and Cultures*

人文学研究科 Graduate School of Humanities  
(連携部局：人間科学研究科・国際公共政策研究科)

Photo: Sei Kosugi

高度副プログラム

「世界の言語文化とグローバリゼーション」

*Languages and Cultures in the World, and Globalization*



羽ばたけ、世界へ



Mardai, Mongolia (撮影: 今岡)



Kiritimati (撮影: 小杉)



Belgium (撮影: 霜鳥)



Istanbul (撮影: 霜鳥)



Thailand (撮影: 霜鳥)



Auschwitz (撮影: 霜鳥)

# SDGs教育プログラムとしての趣旨

本プログラムは、グローバル化の影響を受ける市民社会のあり方と現代社会が直面する社会問題（戦争、紛争、テロリズム、人種、ジェンダー、障がい、社会格差）や環境問題（気候変動、災害、感染症、廃棄物、人と自然の共存）などを含む様々なテーマについて、文学・表象芸術・舞台芸術・映像・メディアの言語文化的分析、社会事象の歴史政治的な分析やフィールドワークなどを通して学び、グローバル化の世界システムについて、学際的な視座から、地域を超えて共に考える機会を提供します。また、様々な地域や時代の言語文化と社会事情について、文学や表象の分析を通して内から深く学ぶことにより、私たち個人の生の実現を妨げる様々な構造的暴力を批判的に検証すると同時に、異なる価値観や思考と共に現代を生きるためのサステナブルでオルタナティブな社会の可能性を模索し、現代社会の抱える様々な課題の解決を探求するための広い視野と知の構築、国際性の涵養を目的とします。

<https://sdgs.osaka-u.ac.jp/education/1227.html>

# SDGs貢献可能性

文学や芸術を通して、社会的弱者や障がい者、さらには人間以外の種といった「他者」の視点で世界を見つめ直すことを学び、また、様々な地域や時代の言語文化と社会事情をフィールドワークも含めて学ぶことで、私たちの生きる世界を複眼的に理解し、**真の多様性と他者性を孕んだ惑星に共生する方途**を探究するための広い視座と知を構築することができます。将来、社会福祉や教育研究、NPOやNGO、国際機関や企業で活躍する学生が、文理を問わず、本プログラムで得た成果を自らの専門分野で実践し、様々な現代社会の課題に取り組み、**文化の〈共創〉**に貢献することを促します。



特定の地域、あるいは複数の地域の言語文化に精通する教員によって構成される本プログラムは、R4年度から個別科目とリレー講義を含めた**約50名の教員からなる部局横断的、領域横断的なプログラム**として生まれ変わりました。本プログラムの複数の構成員は、これまでも、学部・大学院の授業への海外アーティストの招へい、「学問への扉」での学生との共同作業、高校生や一般市民を対象とした公開講座や放送大学などの生涯学習の場の提供、地方自治体や大阪大学21世紀懐徳堂などのアウトリーチ活動の場での講演会やワークショップの開催、大学主催の研究交流会でのNGO・NPOやメディア関係者との交流、といった様々な活動を行ってきました。今後も本プログラムの受講生に授業のテーマと関連する一般公開の行事への参加を奨励することで、専門家のみならず一般市民との交流の中で、共に考える「共想」の機会を「共創」へとつなげること、本プロジェクトで学んだ本学の学生が社会に出て、自らが発信者として活躍することを促進します。



# 高度副プログラム「世界の言語文化とグローバリゼーション」概要

人類は**太古**から大規模な**移動**を繰り返しながら、言語文化と集団を形成してきました。**グローブ（地球）**は現在、様々な仮想の境界線によって区切られると同時に、通信網と交通によってつながっていますが、海を渡る人々、陸を移動する遊牧民などに、国境や境界線はありませんでした。今日の世界地図が作られる契機となったのは、**コペルニクスの地動説**という宇宙についての認識の大転換の後に、西洋の海洋探検家たちの「**大航海**」によって、アメリカ大陸、アフリカ最南端、アジア、オセアニア地域の存在がヨーロッパで認識されるようになったからです。これらの地域の「発見」が、**移民**や**奴隷貿易**も含めた貿易の世界的拡大へとつながり、さらに、18世紀の**産業革命**以降のグローバルな変化は、世界を一変させました。工業力や軍事力を背景とした**近代帝国主義**の拡大により、非西欧地域の資源や労働力が搾取された半面、科学技術や近代的な社会制度の普及が、世界各地の言語文化や社会構造に大きな変容をもたらしました。

# 概要

15世紀半ばから20世紀前半までの**帝国主義**の時代に、社会制度、産業、金融、貿易、軍事面で大変化がおこっただけではなく、地理学、人類学、民俗学等の学問研究の発展により、より広範で精緻な「**世界観**」が作り上げられ、その知識が著作物となって世界中に流通しました。

一方、旧植民地が次々に独立を果たした20世紀後半からは、**エドワード・サード**の『**オリエンタリズム**』（1978年）によって、世界に流通する「オリエント」認識が西欧の視点から作り上げられたものであることが明らかにされ、**ポストコロニアル研究**が、旧植民地の視点から植民地主義の歴史やその言語文化的な影響を批判的に検証し、旧植民地における新たなネーションと文化の形成に着目する研究を力強く進めていきました。**グローバリゼーション**によって国家や民族や宗教、さらにカルチャーやジェンダーの概念そのものが変容しました。また、20世紀後半以降には世界人口の急増に伴う**森林伐採**と**資源開発**の加速化、軍事と産業による**核**や**原子力**、**AI**などの科学技術の開発が、**生態系**と社会構造に大きな変化をもたらしました。

# 概要

21世紀に生きる私たちは、**気候変動、災害、感染症の拡大、廃棄物などの環境問題、紛争やテロリズム、社会格差の問題**など、様々な課題を抱えています。そして、それぞれの民族や社会や個人は、**ネーションの枠を超えて複雑に絡み合うグローバルなネットワーク**のなかで、自らを「主体者」として様々なメディアで自己発信をしています。

本プログラムは、**文学、メディア、芸術による文化表象や社会政治的事象**を言語文化的視点から考察し、それらの表象や事象を生む世界の様々な言語文化と社会について深く学ぶことによって、異なる価値や思考に対する共感に基づく多様な社会のあり方を模索し、「**他者**」と向き合う想像力を養います。**グローバリゼーションの世界システムの構造的暴力**を批判的に検証すると同時に、自らが発信者となって**グローバルなネットワークの構築の可能性**を開拓し、文化の交差点に生きる私たちの立ち位置を考えることにより、**サステナブルな社会のあり方**を思考するための高度な国際性の涵養を目的とします。

# 到達目標

本プログラムの学習を通して、以下の能力を備えた方に修了認定証を授与します。

- ① 理論的な枠組（文学・文化理論、関連分野の理論など）を理解している。
- ② 文化事象や社会事象（帝国主義とグローバリゼーションの関係性、産業・資本・メディア・言語文化のグローバル化、ネーション、ジェンダー、土着文化、サブカルチャー、文化の受容と発信、異文化接触、翻訳を通じた異文化理解、国際関係の協調性と敵対性、国境を越えた人的・文化的な交流、移民・難民・テロリズム、人とモノと自然の共生、環境問題などのテーマを例とする）について、世界の様々な文学や表象の分析、社会政治学的考察、フィールドワークなどを通して、具体的に理解している。
- ③ 上記の理論や知識を応用し、言語文化について論じたり、現代社会が抱える諸問題について考察し、自らの考えを表現できる。

# カリキュラム構成

本プログラムのいずれの科目も、上記の到達目標に掲げた文学・文化理論と関連分野の理論の理解や、文化事象・社会的事象を分析し論じる能力を高める授業を行い、私たちが生きている「世界」に対する理解を深め、そのあるべき姿について考える契機を提供します。本プログラムの構成は段階的な科目配置ではなく、受講生の関心に合わせて、グローバル化の影響のもとにある世界の様々な言語文化や社会のあり方を横断的に学ぶことのできる科目配置になっています。科目を多く履修すればそれだけ広範囲な知見を獲得することができます。

# 履修資格・条件、前提知識の目安

言語文化と社会との関係について関心があり、その関心を深め、私たちを取り巻く状況の本質を追求しようとする意欲を持っていることを条件とします。

## 前提知識の目安

大学生レベルの英文の読解力と日本語のコミュニケーション能力が必要。（科目によっては、英語で行われる授業や、英語と日本語以外の言語能力が求められることがあります。個々のシラバスの履修条件を参照してください。）

## 修了要件

開講科目のなかから、各自の関心と必要に合わせて、自由に科目を選択し、8単位以上を履修すると修了証が発行されます。

# 科目構成

グローバル学方法実習I（吹田）	モハーチ・ゲルゲイ
演習（多文化共生論）（豊中）	河村倫哉
超領域文化論A・B（豊中）	平山晃司
超領域文化論A・B（豊中）	ガデミ アミン
ジェンダー論A・B（豊中）	北井聡子
ジェンダー論A・B（豊中）	鈴木啓峻
グローバリゼーション論A・B（豊中）	小杉世
言語文化共生論A・B（豊中）	里内克巳
言語文化共生論A・B（豊中）	霜鳥慶邦
言語文化形成論A・B（豊中）	中村綾乃
表象文化論A・B（豊中）	木原善彦

# 科目構成

表象文化論 A・B (豊中)

言語文化比較交流論 A・B (豊中)

翻訳研究 A・B (豊中)

翻訳研究 A・B (豊中)

翻訳研究 A・B (豊中)

広域言語文化論Ⅲ A・B (箕面)

広域言語文化論Ⅳ A・B (箕面)

イギリス言語文化表象論Ⅰ A・B (箕面)

アメリカ言語文化表象論Ⅰ A・B (箕面)

アメリカ言語文化表象論Ⅱ A・B (箕面)

林千宏

田中智行

村上スミス アンドリュー

渡辺貴規子

佐高春音

中村未樹

藤原克美

畑田美緒

近藤佑樹

岡本太助

# 科目構成

アジア言語文化資源論II A・B (箕面)	林初梅
アジア言語社会構造論I A・B (箕面)	今岡良子
ヨーロッパ言語社会構造論I A・B (箕面)	藤原克美
アジア言語社会動態論II A・B (箕面)	深尾葉子
イギリス言語社会動態論I A (箕面)	藤山一樹
現代英米政治外交史特殊研究 (箕面)	藤山一樹
世界文学・文化論 (リレー講義) (箕面)	長崎広子 ほか
世界の言語事情 (リレー講義) (箕面)	鳥越慎太郎 ほか
イギリス文化史講義 (豊中)	馬淵恵里
日本の地域と民俗講義 (豊中)	北村毅
人間・環境関係論講義	佐藤廉也

## 個別科目担当教員 プロフィール

モハーチ・ゲルゲイ（医療人類学、科学技術社会論、人新世、共生）

河村倫哉（社会学、民族・エスニシティ、市民社会論）

平山晃司（西洋古典学、古代ギリシアの法と宗教）

ガデミ アミン（グローバル思想史・文化史、グローバル日本史）

北井聡子（ジェンダー/セクシュアリティ表象、ユートピアと性、ロシアのフェミニズム運動）

鈴木啓峻（近現代ドイツの文学と思想、ジェンダー論、アイデンティティ論）

小杉世（英語圏文学、ポストコロニアル研究、オセアニア地域研究、環境人文学）

里内克巳（アメリカ19-20世紀転換期文学、ライフナラティブ、人種・エスニシティ—）

霜鳥慶邦（英語圏文学・文化、第一次・第二次世界大戦の記憶の超領域的研究、文学・文化批評理論）

中村綾乃（在外ドイツ人と第二次世界大戦、ドイツ・東アジア関係史、ドイツ植民地）

木原善彦（アメリカ現代小説、現代アメリカ大衆文化、翻訳研究）

林千宏（16世紀フランス文学、印刷書物文化研究）

田中智行（中国近世白話小説、古典小説批評）

# 個別科目担当教員 プロフィール

村上スミス アンドリュー（日本文学における地域言語の使用と役割、翻訳研究）

渡辺貴規子（19世紀フランス児童文学、近代日本児童文学におけるフランス文学受容、翻訳研究）

佐高春音（中国白話小説、水滸伝、物語論）

中村未樹（イギリス演劇、イギリス文化）

藤原克美（ロシア企業及び産業・ソビエト消費財産業の研究、ジェンダー）

畑田美緒（イギリス文学・19世紀のイギリス小説・ヴィクトリア朝、子供、老人、女性）

近藤佑樹（アメリカ文化、アメリカ文学、フィリップ・ロス）

岡本太助（アメリカ文化・演劇・パフォーマンス）

林初梅（近現代台湾におけるアイデンティティ・言語・社会文化、台湾のなかの日本記憶、台湾先住民言語と神話）

今岡良子（モンゴル遊牧民文化、生物多様性と草原、モンゴル現代女性史）

深尾葉子（社会生態史学、地域環境論、中国社会研究、東アジア里山経済の越境マネジメント）

藤山一樹（戦間期イギリスの対ヨーロッパ/対アメリカ政策と国際秩序への影響）

山田雄三（中心の関心はレイモンド・ウィリアムズが提唱した「感情構造」）

馬淵恵里（18-19世紀イギリス文学）

北村毅（文化人類学、民俗学）

佐藤廉也（生活史、文化地理学、エチオピア、行動生態学、文化生態学）

# リレー講義担当教員プロフィール

## 世界文学・文化論

井上さゆり（ビルマ文学）、山根聡（ウルドゥー文学）、長崎広子（ヒンディー文学）、宮下遼（トルコ文学）、篠原学（フランス文学）、福田義昭（アラブ文学）、北岡志織（ドイツ文学）、中村菜穂（イラン文学）、小野田風子（アフリカ文学）、高橋健一郎（ロシア音楽）、後藤恵（ポルトガル文学）、岡本淳子（スペイン文学）、劉文兵（中国文学）、近藤佑樹（アメリカ文学）、柴田瑞枝（イタリア文学）

## 世界の言語事情

鳥越慎太郎（ポルトガル語文法、ポルトガル語習得研究）、ラッタナセリーウォン・センティアン（タイの言語事情）、岩井亮雄（朝鮮の言語事情）、横井幸子（ソ連時代とロシア、多言語主義）、ファン・ティ・ミー・ロアン（ベトナムの言語事情）、中田聡美（中国の言語事情）、仲尾周一郎（ナイル流域諸国におけるアラビア語）、矢元貴美（フィリピンの言語事情）、栗原唯（フランス語学）、宮崎久美子（スワヒリ語）、長谷川信弥（スペインの言語事情）、岡本真理（ハンガリー語学・ハンガリー文学・近代民族運動）、原真由子（インドネシアの言語事情）、中嶋善輝（モンゴルの言語事情）、西岡美樹（インドおよびその近隣地域の言語事情）

# 受講生の声

2020年度に「大学院等高度副プログラム」を履修した  
WAN NUR AMIRAH BINTI WAN ROSLI（ワン・ヌル・ア  
ミラ・ビンティ・ワン・ロスリ）さん（大学院言語文  
化研究科博士前期課程1年）

私は日本文学を探究しながら高度副プログラムで専攻以外のジェンダー論、グローバリゼーションも学びました。他の国の人たちの考え方を聞いて、今まで知る機会もなかったことを学び、自由に議論もでき、幅広い視野で物事を考えられるようになりました。自分の研究室以外にも教員との繋がりが増えて、気軽に質問できるようになったことも大きいです。また、たくさんの授業を受講したおかげで上手にタイムマネジメントできるようになったことも副産物ですね。

（『大阪大学 News Letter』 No.86, p. 7）



# 受講生の声

本プログラムの履修により、異文化間の理解が深まり、コミュニケーション能力が向上しました。これにより、グローバル化の影響を理解することで、世界の経済、政治、社会などの様々な側面をより広い視野で捉えることができ、国際的な問題に対する洞察力を高めることができます。特に現在の複雑な国際環境においては、そのような能力を持つのは大切なことだと思います。そして、自分の研究の国際化に関する部分において、非常に多大な助けとなります。

(2023年度プログラム修了者 人文学研究科言語文化学専攻博士前期課程 SUN MINGZE)

# 受講生へのメッセージ

本プログラムでは、専攻を超えて広くニーズに合う授業を受講できます。修了要件は8単位ですので、専門の授業との両立も十分可能です。博士後期課程の院生さんも受講が可能です。

将来、国際的視野を必要とする職に就きたいと考えている人、研究者をめざす人、理系・文系問わず、近現代の世界と日本における言語社会文化の状況に関心をお持ちの意欲ある皆さんの受講をお待ちしております。

複数の高度副プログラムに登録して受講している学生さんも多くいますので、組み合わせで受講すること、インターンシップやその他の部局横断プログラムと合わせて、参加をおすすめします。

# 履修について

高度副プログラムの履修登録は、KOANから行ってください。プログラムへの申請登録と構成科目の履修登録の両方が必要です。本プログラムの申請登録は、春夏学期と秋冬学期のKOAN申請登録時期に可能です。

高度副プログラム「世界の言語文化とグローバル化」のKOANサイトは下記のURLから見られます。科目名のリンクをクリックすると、シラバスを閲覧できます。

[https://koan.osaka-u.ac.jp/campusweb/campusquare.do?\\_flowId=FPW4207100-flow&nendo=2025&shikakukbncd=13&shikakucd=90&langkbn=j](https://koan.osaka-u.ac.jp/campusweb/campusquare.do?_flowId=FPW4207100-flow&nendo=2025&shikakukbncd=13&shikakucd=90&langkbn=j)

各授業の初回に高度副プログラムの履修についても担当教員からガイダンスがあります。

## ■KOANの操作方法について

KOANの「プログラム申請」システムで申請受付を行うプログラムの場合、操作方法是以下のとおりです。なお、「プログラム申請」システム以外の方法で申請受付を行うプログラムもありますので、「プログラム申請」のプログラム詳細画面や各プログラムが発行する案内冊子、ホームページ等で確認してください。

### 1.<ログイン>

KOANにログインし、から「プログラム申請」に入る。



<https://koan.osaka-u.ac.jp/>

### 2.<興味のあるプログラムを選択>

**A**または**B**をクリックして、検索を行い、興味のあるプログラムを選択する。



一覧からプログラムを選択します。

内容や構成科目からプログラムを検索します。

### 3.<プログラムの内容を確認し、受講申請>

プログラムの詳細画面の最下部にある「プログラム申請」ボタンをクリックしてください。

その後、4.<プログラム科目の履修登録>を行ってください。

このスクリーンショットは、プログラムの詳細画面の最下部を示しています。赤い枠で「プログラム申請」ボタンが強調されています。

このスクリーンショットは、プログラムの申請画面を示しています。赤い矢印は、前の画面の「プログラム申請」ボタンからこの画面の「プログラム申請」ボタンへと指しています。

プログラム申請期間中はいつでも申請の取消が可能です。

### 4.<プログラム科目の履修登録>

あなたの時間割とプログラムの時間割を見比べながら履修登録することが可能です。

このスクリーンショットは、あなたの時間割とプログラムの時間割を見比べながら履修登録する画面を示しています。赤い矢印は、プログラムの時間割の「履修登録」ボタンからあなたの時間割へと指しています。

クリックして履修登録すると「あなたの時間割」に反映されます。

あなたの時間割

プログラムの時間割

構成科目一覧

# 世界の言語文化とグローバリゼーション

人文学研究科（連携部局：人間科学研究科・国際公共政策研究科）

問い合わせ：人文学研究科豊中事務部学務係（豊中キャンパス）

TEL：06-6850-5856

E-Mail：[jinbun-gakumu@office.osaka-u.ac.jp](mailto:jinbun-gakumu@office.osaka-u.ac.jp)